

県土木に説明会の開催を要求する事となった。また同時に、擁壁工事が終了している急傾斜地は、レッドゾーン指定の対象とならないのか等事務局で確認することとなった。→12月22日各自治会長他人数限定にて説明会実施予定

②住民自治協議会連絡会（11/27日実施）報告
都市整備課より、地域住民として、気づいた危険傾斜地など、危険な場所があれば市に連絡するよう依頼があった旨報告された。本件につき減災部会長から各自治会長に、各地域で気づいた危険箇所を1月末までに連絡するよう依頼が出された。また、住民協としては、街歩きを実施し、その上で市へ報告することとした。また、令和3年度地域づくり事業経費の計画を12月24日までに提出するよう求められた旨報告された。

③都市機能の整った快適なまち推進プラン（案）

に関する意見募集の件

都市機能の整ったまち推進プランの内容が説明され、パブリックコメントを募集しているので、意見のある人は適宜対処するよう依頼された。

④桐ヶ谷市長との懇話会について

事務局より、11月14日に開催された市長との懇話会の概要報告があった。（参加24名）
今回は住民協主催1回目の講演会として開催した。次回は久木に工房を開いている西村千恵さんにファームキャニングについて講演してもらう予定である旨報告があった。

⑤令和3年度地域づくり事業経費申請について
配布資料に基づいて、会計から令和3年度地域づくり事業経費申請案について説明された。協議の結果、特に異論はなく、今後この案に基づき、事務局で取り纏めて申請する事となった。

(2) 審議事項

①各部部长及び事業代表から現況報告・今期活動予定及び全体への協力要請事項等

新拠点部会：11/3に第3回目の久木朝市を開催した。その事例検証をふまえ、4回目の朝市を12/26 10:30～12:00に開催する。チラシは既に作成したので、各自治会に配布する。

ふれあい部会：今後の活動の在り方について、12/22に打ち合わせをする予定。

②その他

2-1 避難所訓練の件

11/19に開催されたコロナ対応の避難所訓練の

概要について、小林さんから報告された。（参加人数40名）

2-2 ハイランド地区空き家の実状について

ハイランドの自治会長/海野さんより、ハイランド地区の空き家の実状について概要説明があった。

2-3 地域運営組織の実態の件

事務局より、配布資料に基づき、全国の地域運営組織の実態についての紹介があった。

2-4 次回役員会の件

次回の役員会は年始を避けて、1月16日13:30とすることとなった。

《レポート》

1. 「ある社会学者のはなし」

昨年の暮れ、著名な社会学者の講演を聴いた。話の内容は「日本の経済、社会、政治、メディア、教育の全てにおいて劣化している。」と云う。まずは経済面でバブルのピーク時には世界のトップ50社に日本企業が32社ランク付けされ

石井達郎（山の根在住）

ていた、2019年現在でトップ50にランクされている企業はトヨタの1社のみ、ここ30年ほどの間に米国、中国等の大手ITデジタル企業がマーケットを席捲し、「ものづくり日本」を標榜していた日本が近年の産業革命と云われて

いる産業のデジタル化で革新的なものの創造に出遅れ、日本の地位は後退した。1990年代初頭のバブルの崩壊後、失われた20年の低迷期の中で日本の企業の多くは後発の中国、アジア企業の経済発展を後ろ盾に安価な労働力等を求め日本から海外に移転してグローバル化が進み、企業の在り方を変えて生き残りを賭けた。また雇用の面でも終身雇用性が崩れこの期間に企業は派遣、パートの非正規社員へのシフトを進め、雇用の構造も大きく変わった。大手企業もこの時代はコスト削減、積極的な投資を控えて内部留保の確保に努め。バブル時には一億総中流といわれた日本人も、その言葉は霧散し今や格差社会が叫ばれる世の中となった。最近日本の一人当たりの給与額が韓国に追い越され、一人あたりの生産性も先進国の中でも低迷しているという。また時間あたりの最低賃

金も米国、欧州を下回っているものとなっているという。経済が低迷すればするほど穴は大きくなり、そこに落ちる人は急増すると云う。格差社会が進み一億総中流といわれた当時の連帯感は薄れている。加えてインターネット、SNSをコミュニケーションツールとする社会では以前と比べ感情の共有が希薄とならざるを得ないという。家庭の在り様も共働き世帯の増加、高齢化社会への対応等、この中で多分私達はこの状態を打破すべく、経済も社会も教育もあらゆる面でチャレンジして行かなければならないのだろう。地域というコスモスにおいても低迷して澱んだものを打破すべく、従来とは異なる発想で、次世代のために何かに挑戦する必要があるものと思う。地域の人々が意識を持って創造的に動けば何かが生まれ、変わるかもしれない。

2. 「久木小学校の防災教育に参加」

鈴木為之（逗子災ボラ、山の根在住）

12月17日、久木小学校の4年生を対象に行われた防災教育の授業に、校区住民協から5名の会員がサポーターとして参加しました。小学校では防災に関する授業をカリキュラムに組み込むことになり、社会福祉協議会と逗子災害ボランティアネットワーク（逗子災ボラ）が依頼を受けて授業を担当、地域の防災関係者がサポーターとして参加を依頼された経緯です。テーマは「我が家の防災マニュアル」。授業の内容は次の通りでした。

①児童が作りかけのマニュアルを持ち寄って6人でグループディスカッション、グループに一人ずつサポーターが付いてヒントを与えたり助言したりする（司会龍村）。

②プロジェクターで地域の事故が起こりそうな場所を映写、そして防災で大切なことを解説

（鈴木（新））。

③住民協減災部会で作成した減災地図を全員に配布して、通学路等での防災のヒントになるよう、地図の見方や活用の方法を説明（金子）。の三部構成で行いました。

児童が持ち寄ったマニュアルは、事前の備えや発災の際の行動、避難に関する事、親との連絡や近隣の人たちとの関係等、多岐にわたっており、よく勉強していることがわかりました。今日の授業も糧にして良いマニュアルが出来上がることでしょう。

小学校では、防災教育を毎年行うことになったので、今後住民協として積極的に協力していくことが良いと思います。

参加したメンバーは、小林、龍村、金子、新倉、鈴木（為）の皆様（他に逗子災ボラから鈴木（新）代表が参加）。

《トピックス》

冬を迎える公園

JR金沢踏切の近く、山の根にトーテムポール広場という小さな公園があります。長らく放置されて荒れていた県有地を、自治会が里親として平成19年(2007)に公園化したものです。今、立地が良いせいもあり、一休み・待ち合わせ・親子連れの憩いの、そして集会の場としてよく利用されています。

元々土地一杯に印刷屋さんの建屋があった場所だから、今ある植物は駐輪場との境にあるネズミモチを除いては、全て住民が持ち寄って後から植えられたもの、その植物群が十数年の年月を経て、自然の変化に人の手が加わって、植物の生育のサイクルが作られ始めています。

晩秋から冬を通り過ぎ早春にかかる季節、関心の薄れるこの時期に、小さい公園といえども花をつける植物、青々と葉を茂らせる植物、こぼれた種から芽を出す植物等々があり、それらの生きる姿を紹介しましょう。

秋の彼岸の頃に花を咲かせた彼岸花は、今瑞々しく葉を茂らせています。花が無くなる10月頃に葉を出して、冬の間青々と茂り初夏には姿を消すという、変わった生活史を持つ植物。種を作らず球根で増え、人里だけに生えているという面でも変わり者。球根には毒があるがでんぷんを沢山蓄えているので、昔の人は飢饉の際は毒を抜いて食料とし、救荒植物として植えて増えていったのでしょう。

スイセンは同じヒガンバナ科、今広場では葉がすくすくと育ち年明けに花を咲かせる準備をしています。冬に地上に出る点で彼岸花によく似ています。この植物は海に近い場所に大きな野生の群落を作って繁殖、水に浮きやすい球根が暖流に乗って流れ着いて繁殖したといわれています。

ヤグルマギクが、11月にこぼれた種から芽を出し育ち始めています。この花、毎年種をこぼして今は春の公園の主演の一つになりました。

夏にこぼれた種から育った金盞花が今花を咲かせ始めています。

ヤグルマギクや金盞花は、ヨーロッパでは野生化しているそうだから、ここでも自然のサイクルとして生き延びていくことが出来るのでしょう。

木陰ではヒマラヤユキノシタが、わが季節というばかりに葉を茂らせており、早春に花を咲かせることでしょう。

木花では、名残りのバラが咲いています。隣地の榎が大きく育ち、夏の間は日陰となり秋に斜光を受け榎が葉を落とし始めてから十分な日照が得られるような環境に適応させて、花期を遅らせているのでしょう。垣根の蠟梅は、わずかですが年明けに開花して芳香を漂わせてくれ、種がこぼれて育った乙女椿も蕾を膨らませて早春の開花を待っています。

華やかな植栽のパンジーの陰で、公園の植物は命を長らえています。

植物というものは、動物のように自分が動いてよい環境を求めることが出来にくい代わりに、巧みに環境に己を適応される術を時間をかけて獲得していくようです。

鈴木 為之(山の根在住)

編集後記

令和3年の年が明けた。年末のコロナ感染者の急増を受けて正月の初詣をはじめ年始の行事の多くは制約を受け、例年に比べ正月の雰囲気を感じられないものとなった。次は立春/豆まき、近くの神社ではコロナの対応はどうなっているのだろうか。日本らしさと季節の変化を感じる行事を、例年通り楽しめる様になる事を切に祈る。

事務局長 石井 達郎

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第45号(準備会から通算第66号)

発行日 令和3年1月16日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

・明けておめでとうございます。

新型コロナを乗り越えて・・・

昨年は世界中が新型コロナウイルスの脅威に晒された1年となりました、年明けを迎え、第三波の感染者数は増加の一途を辿り、一月早々に首都圏では再び緊急事態宣言の発令が報道される現在です。

公表されている逗子市の感染者数は1月4日現在で105名、昨年11月中旬の51名と比較すると2か月も経過していないにも関わらず、感染者は倍増しています。逗子と云えども安全とは言えず、細心の注意を払って生活と諸活動を行わざるを得ない状態です。今年中にはワクチン投与が可能となるものと思いますが暫くは「Withコロナ」を意識して、新型コロナの足許の感染状況を把握しながら生活、諸活動を展開せざるを得ない状況に変わりはありません。

現在は逗子と云えども新型コロナの感染拡大期、活動のベースとなるコロナ座標軸はコロナ感染対応を最大減の注意を払いつつ、その中で活動、行動の優先順位を総合的に判断して行動することが必要です。年初は先ずは感染防止を優先して、各人が手洗い、マスク着用、3密回避、外食回避等を意識、一方でその中で必要と思われるものは最大限の注意、工夫を重ねながら、新型コロナウイルスを乗り越えて少しでも前進したいものであると思います。

久小校区住民協も地域の活性化、住みやすい地域、地域の問題解決を図りつつ、withコロナを意識して前へ進みたいと考えます。皆さまにとりましても実り多い年であることを祈念しております。

事務局長 石井 達郎

令和2年12月度役員会

開催日時: 令和2年12月5日(土) 13時30分~15時25分

場所: 久木会館で17名(うち役員13名)が参加して開催されました。主な議題は以下の通りです。

(1) 事務局からの報告事項

①神奈川県横須賀土木事務所: 急傾斜地調査結果(レッドゾーン指定)の対応について、報告、討議が行われ、内容が不明な点が散見されることから、各自治会代表・久木住民協代表を対象に